

理学部長
佐藤 友美

「データサイエンス人材育成プログラム（理学部）」（本プログラム）は、リテラシーレベルの教育内容を補完・発展させ、データから意味を抽出し、研究・現場へフィードバックする能力や、AIを活用して課題解決につなげる基礎的実践能力を修得すること及び自身の専門分野において、数理・データサイエンス・AIの応用・活用を構想できる視点を獲得することを目的にしている。

【令和7年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

本プログラムの履修状況は、収容定員（480名）に対して28%（132名）であった。修了者数について、2年次以降配当科目をプログラム上の必修科目としているため、プログラム開始初年度である令和7年度は0名であった。

修了者数向上のため、学期始めに学年ごとのオリエンテーションを実施し、プログラムの詳細を周知、履修推奨を行った。

●学修成果

各科目における課題や最終試験を通じて、学修成果を確認した。また、各科目の授業改善アンケートにより、学生の理解度を把握した。集計・分析結果は、各学部およびFD・SD推進委員会で分析結果を共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業改善アンケートの「総合的に見て満足できる授業でしたか」および「この授業の内容に関して、さらに学びたくなりましたか」という2つの設問項目を通じて、理解しやすさ・有用性・期待充足度、内容理解に基づく興味関心の深化を測定・確認することで、学生アンケートを通じた学生の内容の理解度を測定することとする。令和7年度は、本プログラムの必修科目における学生評価は5段階評価で4以上と高評価を得たと確認した。

なお、本プログラムの一つの必修科目である「生命情報科学」については、3年次以降履修科目であるため、令和9年度分の自己点検から分析対象とする。

| 講義名 | 学習意欲 | 総合的満足度 |
|------------------|--------------------|--------------------|
| 総合講義（データサイエンス入門） | 4.2 | 4.2 |
| 情報リテラシー | 4.0 | 4.4 |
| 基礎物理学実験 | 4.6 | 4.9 |
| 生命情報科学 | 3年次配当のため、令和9年度以降確認 | 3年次配当のため、令和9年度以降確認 |

●学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

理学部では、全ての学生に専任教員を担任教員として配置しており、学生と教員との面談を通じて、プログラムの推奨度をヒアリングし、プログラム改善に繋げていくことを検討する。

●全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

新入生オリエンテーションにおける周知の他、1年次必修科目における履修指導により、プログラム参加率向上に取り組んだ。また、必修科目である「生命情報科学」は多くの学生が履修できるよう並行科目を実施する可能性を検討していく。令和8年度以降も本プログラムの周知と履修促進に注力し、より多くの学生が履修・修了するよう取り組んでいく。

●教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価（令和11年度以降に実施）

本学では「卒業生アンケート」として、就職した学生の追跡調査を3年ごとに行なっている。その内容は、時点の就業状況にとどまらず、在学中の学修である「課題発見・解決能力」、「グローバルな視野」、「豊かな教養」、「確かな専門性」が就職後に与えている影響を測るものである。

加えて、本学大学院への内部進学率が6割程度であることから、研究活動への活用等、進学後の状況を追跡していく。

●産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見（令和13年度以降に実施）

教育プログラム内容・手法等の改善については、データサイエンス人材育成プログラム（理学部）管理部において、検討することとしている。また、必要に応じて、上述した各種アンケートを通じて得た学外の意見を踏まえて、検討を行う予定である。

●数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

必須科目である「総合講義（データサイエンス入門）」では、時事やトレンドなど社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。授業改善アンケートの「この授業の内容に関して、さらに学びたくなりましたか」という設問項目を通じて、本科目における内容理解に基づく興味関心の深化を測定・確認する。

令和7年度は、本プログラムの必修科目における学生評価は5段階評価で4以上と高評価を得たと確認した。

| 講義名 | 学習意欲 |
|------------------|------|
| 総合講義（データサイエンス入門） | 4.2 |

●内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

担当する講義の教員による自己点検ならびに学生アンケートを通じて、本プログラムの教育内容および水準の維持・向上を図る。より「分かりやすい」授業については、学生に対するアンケートやプログラム科目担当教員のFDや、他組織の類似プログラムのあり方の情報収集及び学部内での共有を通じて、その内容と方法を適宜アップデートすることで維持・向上に努める。